

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス	開設学科		管理栄養学科		
科目名称	公衆衛生学					授業形態	講義		
科目コード	301600	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	木村 志緒								
授業概要	<p>公衆衛生とは「地域社会の努力によって、疾病予防、寿命延長、身体的・精神的健康の増進を図る科学・技術である」と定義されている。</p> <p>本授業では、この定義について理解を深めるため、健康の概念、公衆衛生の概念、予防医学の歴史、環境汚染、保健統計、疫学の方法、健康日本21（第2次）等について学習する。【知識・理解を応用し活用する能力】</p> <p>定期試験の評価割合を約50%、残り約50%は授業前後の課題正答率としており、課題提出期限を過ぎた場合は減点するのでスケジュール管理を行って提出遅れないように注意すること。【自己管理能力】</p> <p>また、本授業では自分自身が知識を身に付けるにとどまらず、周囲の人と協力して問題の正答を見出したり、他者の苦手なところをサポートしたりといった協調・協働も身に付けられるよう取り組むこと。【協調・協働能力】</p>								
関連する科目	履修前に、食事計画論実習Ⅰを受講しておくことが望ましい。 履修後に、健康管理概論を受講することが望ましい。								
授業の進め方と方法	<p>(1)第2, 3, 5, 6, 8, 10, 11, 14回の構成は下記の通り</p> <p>授業序盤：授業前に回答した例題について周囲の人と意見交換を行う</p> <p>授業中盤：教員による例題解説を聴く 授業終盤：個別対応時間（本日の授業に関する質問、次回分の予習など）</p> <p>(2)第4, 7, 9, 12, 13, 15回の構成は下記の通り</p> <p>授業の前半：問題20問を解き、ユニパ等で回答番号を提出する。 （本授業では問題を解くスピードを求めるのではなく、思い込みや早合点による誤答を防止することに重点をおくので、回答時間を個別に設定することとする。）</p> <p>授業の後半：教員から解答解説を受け取り、自己採点や振り返りを行ったあと、次回分の予習や定期試験に向けた学習を行う</p>								
授業計画【第1回】	本授業の概要・進め方・予習の仕方等の説明 ：授業概要、授業の進め方、授業計画、授業の到達目標、時間外の学習、評価方法等について理解し、予習に取り組む								
授業計画【第2回】	健康の概念、公衆衛生の概念 ：プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの違い等について理解する								
授業計画【第3回】	公衆衛生・予防医学の歴史 ：ジェンナー、スノー、コッホ、ウィンスローなどの業績、わが国の公衆衛生・予防医学の歴史等について理解する								
授業計画【第4回】	確認テスト(1) ：第2～3回で学習した事柄についての問題								
授業計画【第5回】	生態系の人々の生活 ：環境保全に関する条約や環境汚染、四大公害等について理解する								
授業計画【第6回】	環境衛生 ：温熱、上下水道、廃棄物処理などの環境衛生等について理解する								
授業計画【第7回】	確認テスト(2) ：第5～6回で学習した事柄についての問題								
授業計画【第8回】	保健統計 ：人口静態統計と人口動態統計の違い、患者調査と国民生活基礎調査の違い等について理解する								
授業計画【第9回】	確認テスト(3) ：第8回で学習した事柄についての問題								
授業計画【第10回】	疫学手法(1) ：症例対照研究とコホート研究の違い等について理解する								

授業計画 【第11回】	疫学手法(2) : 敏感度、特異度、陽性反応の中度等について理解する
授業計画 【第12回】	確認テスト(4) : 第10~11回で学習した事柄についての問題
授業計画 【第13回】	確認テスト(5) : 第10~11回で学習した事柄についての問題 (疫学手法は苦手意識が強い人が多い事柄なので、確認テストを2回実施します)
授業計画 【第14回】	健康日本21 (第2次) : 目標項目や中間評価等について理解する
授業計画 【第15回】	確認テスト(6) : 第14回で学習した事柄についての問題
授業の到達目標	①ユニバにおける課題提出を通してスケジュール管理等の自己管理能力を身に付ける【自己管理能力】 ②国家試験に必要な基礎的な知識および類似問題を解く際に活用できる力を身に付ける【知識・理解を応用し活用する能力】 ③社会人となった時、管理栄養士として他者と連携し、協調・協働して行動できる力を身に付ける【協調・協働能力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	<学習時間：1時間程度> ①教科書の次回分に該当する範囲を読む ②予習スライドを見ながら、教科書にアンダーラインを引いたり、予習スライドの色文字や吹き出し部分を書き込んだりする ③暗記シートの空欄や() 部分に赤字等を書き込む ④国試過去問冊子も参照しながら、例題20問を解きユニバで回答番号を提出する (成績に反映されるので高正答率を目指すこと)
授業時間外の学修 【復習】	<学習時間：1時間程度> ①確認テストや定期試験に向けて覚えておくべきことを暗記シートをベースに整理し、インプットする ②1問1答版に取り組む
課題に対する フィードバック	(1) 例題は授業中に解説する (2) 確認テストは回答時間に個人差が生じることを想定して紙媒体で配布する (1) (2) のどちらについても、質問等には授業時間外も含め対応する
評価方法・基準	以下の項目に基づいて総合的かつ相対的に評価する 1) 定期試験：約50% 2) 例題：約20% 3) 確認テスト：約30%
テキスト	カレント 改訂 社会・環境と健康 公衆衛生学 (建帛社)
参考書	
備考	